同窓会報

No.79

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

〒510-8027
四日市市茂福65
TEL〈059〉365-3631

印　刷
㈱東海フォトデザインシステム

令和４年度 総会のご案内

令和４年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

○日　時

令和４年６月４日（土）
13時30分受付／14時00分開会

○場　所

四日市商工会議所
１階 ホール

○記念講演（総会後）

〈講師〉
中部大学卓越教授・名古屋大学名誉教授、ローマクラブ執行委員・日本代表
林　良嗣 氏
（四高43年度卒）

〈演題〉
「2022年、ローマクラブ・レポート「成長の限界」50周年を読み解く ー日本の危機に気づき、四高生こそ世界に羽ばたけ」

終了後
◦抽選会のあと記念撮影

○付　記
◦会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
◦講演につきましては、一般に公開しております。お知り合いで、ご興味のあります方には、ご案内下さい。

○問合せ
四日市高校同窓会館
TEL・FAX 059-365-3631
Eメール sikoukai@m2.cty-net.ne.jp
https://shiko-kai.com/

コロナ後の社会

同窓会第五代会長　伊藤勘作（四高35年度卒）

コロナが始まって3回目のお正月を迎えましたが、ワクチンの2回接種を大方の人が了えて、感染も落ち着いてきたかと思っていた矢先、オミクロン株が猛威を振るい始めました。

100年に1度と言われるコロナパンデミックを克服するために、わが国では3回目のワクチン接種が繰り上げて進められようとしています。

引き続き手洗い、うがいの励行と3密を避ける日常生活を心がけると共に、経済に配慮しつつ、社会全体で感染拡大防止に努める必要があると思います。

さて、大学母校の機関紙にちょっと面白い対談記事が載っていましたので以下にご紹介致します。

「文明（civilization）と文化（culture）はどこが違うのかと言えば、例えば、「火事を消す」というタスクがある場合、「文明」では消火器で消す。文明の利器です。地球上どこの社会でも火は消火器で消せます。文明は普遍的です。しかし「文化」の火の消し方というのは特異的です。例えばお城の屋根の上に「しゃちほこ」を載せます。しゃちほこは水を呼ぶから防火の対策になると思ってやっているのですが、実際には火は消えません。しかし、しゃちほこを屋根に載せることと「火が消える」ことを脳内で結び付けている集団が日本列島にたしかにいた（いる）。この不思議な意味の結び付け状態こそが「文化」です。よその集団からすると、まことに奇妙な意味の結び付けですが。馬鹿にできません。これが面白がられる。お城の屋根に消火器を置いても観光客は来ない。ところが「水をよび、火を消す意味で城の屋根には、しゃちを載せてあります」と言うと、面白いと感じて、世界中から見に来る。ホモサピエンスは意味のこじつけでできた文化を面白がる動物なんですね。」

以上が紹介記事ですが、文明と文化の違いがお判りいただけましたでしょうか？

最後になりますが、コロナを一日も早く収束させ、係る日本人の感性と新しい知能を有するわが国の若人たちの手によって、地球上に持続可能な社会が実現することを心より願っています。

ご挨拶

学校長　松岡泰之

同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申しあげます。また、平素から本校の教育活動に多大なるご支援をいただいておりますことに、心より御礼申しあげます。

この4月に、同窓会のご支援により、体育館の富田駅側壁面に懸垂幕の枠を設置いたしました。ここには、学校と同窓会が一体となって部活動や校外活動を応援したいという思いを込めています。4月に、最初の懸垂幕として「科学の甲子園　全国大会第五位」を掲げたところ、これを見たという卒業生の方々から、私あてに40通を超えるメールやラインが届きました。

「朝、名古屋へ通勤する途中、四高に掲げられている懸垂幕が目に入りました。後輩の頑張りをみて、自分も仕事を頑張ろうと、朝からたくさんの元気をもらいました。」実際には会ったことのない先輩が、後輩の活躍から元気の素を受け取り、それを返してもらうことが、後輩たちの励みとなり、元気の素を受け取る、この元気の広がりを生む同窓のつながりのすばらしさに感じ入りました。これからもたくさんの懸垂幕を掲げて元気を発信していけるよう、生徒たちの活躍を期待しているところです。

さて、この2年間、コロナの感染拡大により、本校の教育活動は通常の予定からの変更を余儀なくされることが度々ありました。感染の終息はまだ見えませんが、コロナ禍を経験したからこそわかったことがあります。制約が多い日々の生活の中で、「今まで必要と思っていたことが、実はなくてもなんとかなる」、「絶対にできないと思っていたことが、工夫次第でなんとかできる」など、身近なところでパラダイムシフトが次々に起こりました。コロナが落ち着いた後は、すべてを元の状態に戻すのではなく、ニューノーマルを柔軟に受け入れ、ウイズコロナ社会への移行に伴う変化を利用して、時代を前進させることが肝要と考えます。本校の教育をとおして、これからの時代を、先頭に立って切り拓いていく人を育てていきたいと存じます。

最後に、四高同窓会のますますのご発展を祈念申しあげますとともに、今後とも変わらぬ母校へのご支援ご協力をお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

流々滴

昨年の一月に流行が始まってから二年以上になるが、一向に終息する気配がない▼この間、世界では約４億人が感染し、約五八〇万人が死亡している。日本ではかなり低く抑えられているものの、約三六〇万人が感染し、約二万人が亡くなっている▼コロナウィルスがパンデミックと呼ばれるような大流行をもたらした理由には、遺伝子としてＤＮＡではなく、ＲＮＡを持つことがあげられるだろう。ＲＮＡはＤＮＡのように安定な二本鎖の高分子ではないため、変異しやすいといわれている。これまで日本でも流行したアルファ株、デルタ株のように変異を繰り返して、ヒトの免疫システムをうまくすり抜けてきたようだ▼もう一つの理由として考えられるのは、現在流行中のオミクロン株にみられる弱毒化の傾向である。ウィルスの感染の目的は、宿主の体内で増殖することにある。したがって、宿主であるヒトをあまり重篤化させるのは自身の繁栄にとって得策ではないといえる。宿主と共存することが最適な生存戦略なのだろう。このウィルスは、その毒性を弱めて、感染を拡大しつつ、人類との共存の道を探っているのかもしれない▼何とも狡猾なウィルスに世界中が右往左往させられた二年間と言わざるを得ない。このような展開をだれが予想できたであろうか。来年度こそは平常な世の中に戻ることを祈るばかりである。（青山）

令和３年度 四日市高校同窓会総会報告

2021年11月６日
四日市商工会議所

令和３年11月６日(土)、６月より延期された、令和３年度総会が四日市商工会議所において34名の参加を得て開催されました。

伊藤会長からはコロナ打開・景気回復に向けての意気込みを伺いました。松岡校長からは近鉄線から見える懸垂幕をご紹介いただき、在校生の作成した母校紹介動画を見せていただきました。続いて藤原副会長を司会に、森常任理事が議長を務め、議事審議を行いました。

尚、予定しておりました林良嗣先生の講演は来年度総会へと再延期させていただき、ティーパーティーは中止となりました。

議　事

○第一号議案
　令和２年度事業報告
○第二号議案
　令和２年度会計報告
○第三号議案
　令和３年度事業計画
○第四号議案
　令和３年度予算
以上を審議し、承認されました。

総会出席者の皆さん

総会風景

一般財団法人四高会　令和２年度 収支決算書

（令和２年４月１日 ～ 令和３年３月31日）

単位：円

科　目	摘　要	決算額	予算額
Ⅰ．収入の部			
① 事業収入	会館使用料	54,200	50,000
② 受取寄付金収入	同窓会より	2,500,000	2,500,000
③ 修繕引当資産取崩収入	定期預金取崩	4,700,690	4,700,690
④ 雑　収　入	施設利用料、利息等	21,178	11,501
合　計		7,276,068	7,262,191
Ⅱ．支出の部			
① 事業費・管理費支出		7,246,109	7,729,000
会議費支出	会議等	0	80,000
講演開催費支出	講演会	0	120,000
地元協力費支出	十四川の桜管理	50,000	50,000
消耗品費支出	備品、コピー機・事務諸経費	199,460	250,000
修繕費支出	会館塗装・防水工事他	5,958,960	6,000,000
光熱水料費支出	電気、水道、ガス	367,149	420,000
保険料支出	火災保険料	23,510	25,000
租税公課支出	固定資産税、県・市税等	436,200	500,000
清掃費支出	環境整備等	103,000	120,000
支払負担金支出	商工会議所会費	14,000	14,000
雑費支出	証明書発行等	93,830	150,000
② 予備費支出		0	100,000
合　計		7,246,109	7,829,000
Ⅲ．当年度収支差額		29,959	△ 566,809
Ⅳ．前年度繰越収支差額		887,809	887,809
Ⅴ．次年度繰越収支差額		917,768	321,000

百五銀行富田駅前支店普通預金　単位：　円

次年度繰越収支差額	917,768

修繕引当資産（百五銀行富田駅前支店定期預金）　単位：　円

前年度末	4,700,690
今年度取崩額	△ 4,700,690
今年度末	0

四日市高校同窓会　令和２年度 収支決算書

（令和２年４月１日 ～ 令和３年３月31日）

〔収入の部〕　単位：円

項　目	細　目	摘　要			決算額	予算額
① 同窓会収入					7,942,200	7,900,000
	入　会　金	全日制　1,800円×984人			1,771,200	1,800,000
	同窓会費	終身(20000)	304	6,080,000		
		10年(10000)		0		
		5年(5000)	1	5,000		
		3年(3000)	1	2,000		
		1年(1000)	84	84,000	6,171,000	6,100,000
② 雑　収　益		名簿広告還元金、利子・その他			460,608	9,042
③ 前期繰越金					1,250,958	1,250,958
合　計					9,653,766	9,160,000

〔支出の部〕　単位：円

項　目	細　目	摘　要	決算額	予算額
① 運　営　費			1,504,722	1,600,000
	給　与	給料、手当	1,030,000	1,100,000
	事　務	備品購入、印刷、事務用品等、諸経費	294,165	300,000
	通　信	電話、郵便、インターネット関連費	180,557	200,000
② 会　議　費			86,950	280,000
	総　会	会場費、総会景品代	76,950	200,000
	理事会	会場費	6,160	70,000
	常任理事会	会場費、会議費	3,840	10,000
③ 事　業　費			2,278,663	2,400,000
	会　報	会報印刷及び発送費	1,114,113	1,200,000
	学校活動助成金	懸垂幕昇降機寄贈、激励金	1,164,550	1,200,000
④ 四高会拠出金		（一財）四高会への寄付金	2,500,000	2,500,000
⑤ 積　立　金			1,600,000	1,900,000
⑥ 予　備　費			0	150,000
⑦ 次期繰越金			1,683,431	330,000
合　計			9,653,766	9,160,000

百五銀行富田駅前支店普通預金　単位：円

次年度繰越金	1,683,431
令和２年度卒業生 同窓会費 預り金	6,860,000
今年度末	8,543,431

特別会計積立金（百五銀行富田駅前支店定期預金）　単位：円

前年度末	57,817,467
今年度積立金	1,600,000
利　子	4,615
今年度末	59,422,082

関西四高会のお知らせ

新春の候、皆さまには益々お元気のことと存じます。

さて、下記のとおり「令和４年 関西四高会」を計画いたしました。今回より50歳以上という対象を無くし、より多くの方に参加いただけるように致しました。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

◇**開催日時**　令和４年９月23日（祝・金）12時～14時
　受付開始 11時00分　※集合写真撮影は11時45分～

◇**参加対象の方**　卒業生（富中、四女、北女、四高、通信）
　関西地区に現在お住まいやご勤務されている方、過去にお住まい・ご勤務されていた方、関西地区の大学等を卒業された方、等々、関西に所縁や想いのある方　※四日市市在住の方も大歓迎です。

◇**場所**　都ホテル尼崎（電話06-6488-7777）
　阪神尼崎駅より徒歩６分　ＪＲ尼崎駅より車で５分

◇**会費**　一般 8,500円、 学生 7,000円

出席のご連絡は、以下①・②・③いずれかの方法で**８月31日まで**にお願いいたします。

①ご案内はがきの返信用はがきに記入の上、FAX で送信または郵送　FAX 番号06-4967-9155

②メールで連絡　tomoaki1801@icloud.com まで。メールタイトルに「関西四高会」と記入のこと。

③幹事　北村公亮（昭和50年度卒）、佐藤浩・まり子（昭和57年度卒）まで直接連絡 090-4262-8704（北村公亮）、090-1405-0586（佐藤まり子〔旧姓 吉川〕）

※お申込の場合は、ご住所・お名前・卒業年度をお知らせください。

※ご案内はがきを受け取ったことのない方で送付ご希望の方は、住所・お名前・連絡先（TEL）を幹事までお知らせください。

2019.9.30　ホテルグランヴィア大阪

第13回 銀城親睦ゴルフ大会

恒例の「四高同窓会第13回銀城親睦ゴルフ大会」は去る令和３年11月４日(木)に四日市カンツリー倶楽部で開催されました。

参加者は男子49名、女子３名の総勢52名で行われました。当日は絶好の秋晴れに恵まれゴルフを満喫いただきました。優勝者は男子の部が山下晃さん（Ｓ36年度卒）、女子の部が今谷香さん（Ｓ47年度卒）でした。

ゴルフ愛好家の皆さんは次回令和４年11月10日(木)も奮ってご参加の程お願い申し上げます。

男女優勝者と会長

会館だより

。副会長種橋潤治氏（四高43）が令和三年度秋の叙勲におきまして旭日小綬章を受章されました。おめでとうございます。

。永年に亘り常任理事として同窓会運営にご尽力くださいました長谷川正統氏（四高38）が昨秋11月に、また金子和生氏（四高37）が今年１月にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

。四高35年度卒 四高三六ゴルフ会様より１５５０００円のご寄付をいただきました。有難うございます。

ご住所変更の折には会館までご一報ください。電話・メール・ＨＰお問い合わせのいずれかからお願いいたします。

（小林）

令和３年度会費納入者

（敬称略）

五十嵐康陽、石井茜、石川陸、石橋宗太郎、宇都宮陽奈、大橋桜花、大洞柊菜子、大山詠未、岡田伊織、岡林範紘、岡村隆洋、加藤伶奈、川本愛幸、栗本菜々美、近藤亜伎子、澁谷太陽、清水谷真緒、千田航、田中萌乃香、辻村沙知、土井遥香、戸﨑夏帆、中千代穂香、中山咲希、長谷川弓起、福原愛望、藤井花音、古市愛、松嶌千明、松久登生、水谷公香、水谷乃々佳、三原静香、村上遥都、森綸菜、柳田新太、山﨑惟月、山本彩加、山本隆樹、池戸萌、伊藤香帆、伊藤敬吾、今岡鈴音、岩下真楓、臼井絢香、内田陽菜、太田早耶、大平奈津美、岡田向日葵、岡田茉桜、加藤菜々子、加藤芽生、北谷優衣、佐藤碧海、椎村優紀、清水諄、下村宏太朗、新間桃花、鈴木翔太、髙井颯茉、髙橋優斗、寺田祥真、渡海奈那子、豊田直央、内藤美海、中尾祥子、服部大二郎、濱口京香、早川由乃、日置真代、藤井海斗、前岨悠菜、巳上小楽咲、水谷祐一朗、三輪菜月、森島徹、森本栞名、山口真愛、青野菜々瀬、伊藤花倫、伊藤瑠有斗、上田杏奈、内田詢乃、勝真悠、近藤由依、佐藤茉奈、豊田翔太朗、中西咲月、日紫喜麻衣、松嶌太洋、安田悠季乃、浅野結衣、芦生陽紀、足立瑶太、乾このみ、宇野優大、大橋周、大平清香、金川拓樹、堺萌絵、城克次朗、須藤ひなた、岨伸明、高橋紘喜、中津遼星、中野颯、中森千夏良、生川志穂子、布尾颯一朗、俣野健太、松尾春希、水谷太一、森晴子、森岡優斗、山際涼太、渡邉真菜、石井莉遠、石濱宏樹、市森可那子、稲富舜、上川純平、江藤元宥、大久保翔太、岡志信、奥平桃子、鍛治侑果、柏木愛生、金森桂太郎、川北茉於、北澤篤、鯉登啓臣、齋藤孝智、齋藤妃華、坂口健真、佐藤萌奈、杉山恭子、髙橋幸太郎、田端風雅、冨田晋也、豊田陽菜、中津文希、長戸美結、橋爪彩衣里、星野健一、松浦真志、三林鈴、宮嶋宏香、三輪翔真、森陽香、山中理央、山原愛理、横山美優、若杉直哉、若山以実、荒木美有、有村大樹、井岡亜優、市原萌々香、鵜野大貴、太田風香、岡本隆暉、加藤栄介、兼佳乃、神森柚妃、川北知穂、北川翔大、黒田尚希、桑原惟人、榊原康太、佐藤見咲、末廣幸葉、須川莉名、高橋佑季、田中亮真、谷口航基、辻彩乃、富島雄也、友保翔大郎、中尾彩花、久田千夏、平尾滉規、福井俊哉、古瀬蒼真、水谷真大、水谷由宇、宮崎竜、桃井翼、山﨑涼雅、山中壮真、山本悠生、弓場絢介、青木慎ノ助、石井陽菜、伊藤直輝、稲富巧実、稲見聡太、臼井智哉、小原一乃、片岡空也、加藤拓真、加藤ひろな、栗本翔太郎、黒田真菜、黒田凜子、小林史佳、斎藤智揮、委文優衣、清水和花、上平翔太郎、鈴木皐太、多田真莉奈、田中青空、近田雅尚、筑田寛大、友成和輝、中井亜美、服部倖、久安舞、藤井海帆、古市大恵、前岨悠華、益田菜々望、松永萌、麦島頼太、森今日子、山村陸人、吉岡真志、若山維吹、和田駿佑、和田宗二郎、浅井陸翔、安藤三菜、飯田さくら、池内公大、石原恵多、石原爽、市川凌雅、伊藤祐平、伊藤柚穂、大崎知樹、岡駿佑、勝原茜子、加藤弓茉、川口哲平、川出帆乃佳、喜多亜美、國分梨聖、小林承太郎、佐藤沙羅、佐藤明暉、佐藤唯佳、武田瑞月、舘直輝、豊田亮太、中野大翔、成清愛架、西村斗公土、西山充、樋口稜真、松谷俊哉、山羽葵、山本愛梨、横山令、吉原俊、阿久津瑠希、東大貴、池村悠希、伊藤大知、伊藤明純、今村淳暉、相可健斗、大平桃嘉、岡田祥弥、川又結月、木立実里、黒川壮梧、小粥咲、田島壮輔、谷槙之輔、千葉俊介、徳山裕記、中島彩夢、西川晃太、羽木遥香、畑中源喜、花田彩未、濱地卓峰、早川直宏、林奏希、伴茅咲希、東浦杏奈、東川颯平、廣瀬了哉、藤巻菜々、藤本拓也、古田梨紗、松浦舞帆、馬渡宗志、三田村和樹、宮下響、山本大幹、山本留実、吉田優人、天野恵輔、伊谷紗弥、市川悠太郎、小野莉玖土、神谷野々花、河合航平、北山果奈、久留原和樹、曽我萌々子、谷川及哉、中尾莉子、中川舞雪、仲代壮良、中易美月、夏梅宙、南海健人、西村美乃里、西村凜、服部晃希、藤田珠希、米花歩夢、前川文哉、南琴葉、森田和真、山田めみ、山本愛瑠、石原圭人、伊藤碧、上田望友、内田彩希、勝井涼平、加藤日向菜、髙橋直也、長谷川光、堀木優成、前田早慧、水谷暉、水谷伊吹、水谷光希、本巣壮秀、酒井弘志、歌井高志、岡健太、後藤純一、土井章平　（248名）

会費納入のお願い

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願い申し上げます。

◆**納入金額**
終身会費　２万円
毎年納入の場合　年会費　１千円

◆**納入方法**
①郵便振替
口座番号　００８２０－８－６３６７
三重県立四日市高校同窓会
※専用の振込用紙がありますのでご連絡下されば送付いたします。
②現金書留
会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは同窓会館まで》
０５９－３６５－３６３１
sikoukai@m2.cty-net.ne.jp

木村弘子（旧姓・津田）
（四高28年度卒）

東京桜菜会

四日市高校28年度卒の同窓会は、「桜菜会」と言います。

毎年校庭脇の十四川堤に咲く桜と菜の花をイメージして、池内（後藤）定雄先生が名付けて下さいました。

年1回の総会は、お互いの健康を喜び、昔話、四方山話に興じる楽しいひとときです。

その桜菜会を基に「東京桜菜会」を渡部成也さん、福岡昭男さん、舘親光さん達が立ち上げて下さったのです。

最初「関東桜菜会」と命名されたのですが、反社会的集団のイメージありとの意見が出て改名したのでした。

東京・神奈川・千葉・埼玉在住の会員がメンバーです。

東京桜菜会は年1回定例会が開催されますが、何よりの楽しみは「四日会」です。四日市に因み毎月4日の4時（のちに14時）、いつも同じ場所、連絡無しの自由参加という、おおらかな同窓会です。

思いっきり故郷の言葉で語り飲んだり、食べたり、笑ったりです。

旅行の相談、ゴルフの打ち合わせ、メンバーの近況など、あっという間に3時間が過ぎてしまいます。

この2年間、コロナ禍で集会はお休みですが、再開が待ち遠しい此の頃です。

夜行列車で修学旅行

私達67年前の修学旅行は、夜行列車で車中泊を含めて、3泊4日、東京・箱根・日光の旅でした。

最初の目的地、東京までの車中8時間は、睡眠に当てた大切な時間なのですが、そうはまいりません。眠っている人は皆無と言っていいでしょう。

引率の先生方も交えてお喋りが弾み楽しい談話室となりました。

そうでした!!私達憧れの独身男性のK先生と、クラスメイトの可愛いM子さんの、ロマンスが芽生えたのでした。

羨ましいけど、みんなで応援しました。

待ちきれなかったかのように卒業式を終えるや否や、4月にお二人はゴールイン。

18歳の可愛い花嫁さんが誕生したのです。

めでたし、めでたし!!でした。

草いきれ　恋に逡巡
　　なかりし頃　　弘子

渾名で呼ぶ　昔の仲間
　　赤のまま　　弘子

伊藤亘行氏に初見そして再見

清水正明
（四高42年度卒）

平成元年10月7日、私は初めて、四日市出身の伊藤亘行氏（1921～2002）にお会いすることになった。

私の担当する「文化展望四日市」第7号の記事「人物登場　訪問インタビュー」で「声楽家　伊藤亘行氏」を東京に訪問することがそれであった。

当時伊藤氏は東京芸術大学を退官と同時に同大学名誉教授に就任される一方、東京都本郷の尚美学園短期大学教授に就かれていた。その尚美学園内バリオホール応接室で待っておられた長身の伊藤氏に爽やかな笑顔で迎えられ、緊張気味の私はホッとした覚えがある。

インタビュー内容は「文化展望四日市」第7号をご覧いただくとして、音楽の話しとなると旧制富中出身の伊藤氏は、一流声楽家としての威厳というか、尊大さは微塵もなく、丁寧に解り易く、また時には懐かしそうな面持ちで応対されたことを思い出す。

特に我らが故郷、白砂青松のつづく生家近くの富田浜海岸での発声練習や、寒風の吹きすさぶ破れ校舎にもめげず熱心に歌う児童らの健気さにはひとしお奮い立ったと言われる。

そのため、戦後間もなく、各校で校歌作りが盛んになり、伊藤氏が作曲を依頼されても、声楽家の自分は断れ切れずに何校も作ってきた。幸いにも四日市には山口誓子さん、大木惇夫さんなどの作詞で児童らに相応しい歌詞も多く、曲付けもし甲斐があったと言われた。

一方の「四日市市歌」では、佐佐木信綱さん作詞の歌詞を見たとき、「わが四日市　大四日市」が大きな軸になっていたわけで、これが曲を作る上で大きな助けになったわけです、と大袈裟に立ち上がられた様子が目に浮んでくる。

戦後の「毎日音楽コンクール」の声楽部門で一位特賞受賞後は多くのオペラコンサートでソリストを務め、カラヤン指揮の「第九」ではN響ともども日本縦断コンサートをするなど大いに我が国を興奮の坩堝に誘い込んだ伊藤氏は、訪問インタビューを終えるに当って、「あるひとつの大きなものができるというレベルまできていると思います」と、四日市の音楽現状を予測されてから今日まで、伊藤氏とは再び会う機会に恵まれなかった。

しかし、平成が去って令和3年2月の「伊藤亘行さん生誕100年を祝う集い」では、在りし日の伊藤氏を偲ぶエピソードや写真などを親類縁者や音楽仲間から語ってもらったりして伊藤氏に再見することができたのは、コロナ禍とはいえ、市民にとっても大いなる至福の時であったと思われる。

祝う集いに合わせて刊行された
四日市「うたものがたり」オペラ歌手 伊藤亘行の青春

伊藤亘行さん生誕100年を祝う集い

伊藤亘行氏
若かりし頃

昨年2月6日、「伊藤亘行さん生誕100年を祝う集い」が四日市市文化会館第3ホールで催されました。四日市地域ゆかりの「郷土作家」顕彰事業委員会会長志水（清水）氏を中心に、旧制富田中学校第36回卒で東京音楽学校（現東京芸術大）へ進学、オペラ歌手となられた伊藤氏の足跡を追い、四日市市歌や多くの校歌を残す等、郷土の音楽振興に貢献された姿を振り返りました。会中では服部八州宏氏（四高30）、丹羽伸也氏（四高55）が伊藤氏作曲作品を披露されました。

服部さん斉唱

会の風景

人物

支えてくれる心強い存在

丹羽 伸也（四高55年度卒）

四日市高校における財産は、多くの友人に恵まれたことです。クラスメイトとして、部活動の仲間として、それ以外の活動においても、たくさんの人と出会いました。そうした友人たちは、卒業して40年以上経った今も、自分を励まし、支えてくれる存在として続いています。中でも吹奏楽部の仲間、それも男ばかり８人の集まりは毎年欠かさず続いており、まったく違う職業であるので、情報を交換したり、想い出話に花を咲かせたりしています。

私は音楽の道を目指し、実際に音楽大学に進学しました。そんな生徒はごく一部であり、なかなか理解されなかったのも事実です。そうした際に、理解し、一目置いてくれた仲間がいてくれたことが、とても心の支えになりました。仲間だけでなく先生方の中にも、私を認めて見守ってくださった方がいらっしゃいました。当時もそうでしたが、むしろ今の方が感謝の思いを強く持っています。

大学卒業後は中学校の教師となり、たくさんの生徒と関わってきました。なかなか良い教師にはなれませんでしたが、自分が感謝している高校時代の経験、「認めてくれる人がいることが心を強くしてくれる」ことを、可能な限り意識して生徒に接してきました。管理職となった今も、職員に対して、同じように「認める」ことを大切にしています。

教育委員会（行政）で勤務した際は、学校関係者が少ない市役所のビルの中で、アウェーを強く感じましたが、そこにも同級生がいてくれたのでとても心強かったですし、また、学校現場に戻ると、同じ管理職にも同級生がいて、相談し合うことで安心させられることも多いです。

異動する度に様々な地域へ赴任しました。職員室はもとより、どこの地域にも同級生や先輩方、後輩のみなさんとのつながりがあり、自分を支えてくれていることを感じました。そうしたつながりは、四日市高校の「伝統」だけでなく、「情熱」や「まごころ」によって保たれているのだと思います。

教え子としての四高生

小久保 竜也（四高Ｈ29年度卒）

６月の３週間、教育実習生として４年ぶりに四高の先生方のご指導を受けることができました。五輪前にコロナウイルスが猛威を振るう中、県外から４人の実習生を受け入れていただけたことに大変感謝しております。ここでは実習について先生方のこと、生徒のこと、四高の変化のことの３つ、お話ししようと思います。

まず、先生方から学んだことについてです。社会人としての根性を叩き直されるところから始まり、「なぜ教員になりたいのか？」「教科を通して何を教えたいのか？」といったことを十分に考えられていないとご指摘いただきました。

次に、生徒との対話の中での気付きについてです。生徒に自分の授業がどうだったか意見を聞いた時に、「難しかったけど、面白かった」と言ってもらい、しめしめと思っていたら、ある生徒から「ここここのつながりの説明が分かりませんでした」と本質的な指摘を受けました。職員室での会話かと思うほどでした。傍から見ればどちらが先生か分からなかったでしょう。また、研究授業では予想外のことがいくつも起こり、焦ってしまいました。その場では何事もなかったような顔で切り抜けたつもりでしたが、授業後に「小久保先生、めっちゃ緊張してましたね。」と笑われてしまいました。生徒にごまかしは効かないと痛感しています。

さて、四高は先生も生徒も様々なことに挑戦して、様変わりしていました。Ｚｏｏｍで英語圏の先生からパラグラフライティングを教わったり、理科室で豚の解剖をしたり…私も生徒になって受けたかったです。普通教室でも、講義内容に生徒が興味を持つような「仕掛け」が詰め込まれていました。放課後には自主的に勉強会を開いたり、英語のディベートを練習したりする姿もありました。これからも四高は生徒がより質の高い学びを経験できるよう、新しい活動に取り組んでいくと思います。そのときには、教員として、教え子としての四高生の学びを支えられれば望外の喜びです。

四高通信の思い出

道藤 由一（通信制Ｈ18年度卒）

私が何故通信制に入学したかから記述します。

末子の娘が中学校でいじめがあったか保健室登校をしており心療内科へお世話になり、教室での授業が受けられなく普通校への進学ができなかった。そこで通信制であれば登校しなくて済むだろうと思い入学の手続きをしました。

入学は面接のみで、娘といっしょに面接を受け通信制へ入学となりました。入学にあたり私は一度高校を卒業しておりましたが10年以上経っていれば入学可能ということで入学しました。

通信制では基本的にレポートの提出ですが、スクーリングもあり対面授業を受けなければなりません。結果として娘は早々と登校できなくなりましたが、私は親の立場から続けました。これは自分の意志があれば年齢にかかわらず勉強が出来ることを子供に見せたかったからです。

通信制の卒業に関して、単位制で75単位の取得で卒業できるとのことで、３年での卒業を目指しました。科目は必修と選択があり、学校行事の参加も含まれ年間取得可能なカリキュラムを申請して学業に励みました。入学して始めに科目が多いので、さて何を選択すれば良いかまよいましたが、３年間でほとんどの科目を受けられるように選びました。クラス生は10～20代が大半で私達高齢者が３名程度で色々な動機で入学され自分のできる範囲での学業を励まれていました。対面授業での生徒数はばらばらで、先生と一対一の授業もありました。

特別な行事として通信祭と東海地区の通信制高校の交流会がありました。通信祭はクラス単位で模擬店を運営することで楽しかったです。通信制の交流会は輪番で当番の校へ集まり催し等を行うことで他校との交流を深めるものでした。何はともあれ、３年で無事卒業できほっとしたことです。

丁度通信制も四日市高校から北星高校へ移管され、最後の卒業生になりました。皆様には多大にお世話になりました。感謝

編集後記

同窓会報79号をご覧いただき、ありがとうございます。昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、延期や中止となった学年同窓会等の行事も多いのではないでしょうか。

同窓生と集まる機会が減ってしまった今だからこそ、この同窓会報が母校を懐かしみ、母校の近況を知っていただくきっかけの一助となれば幸いです。（前田）

会報に関わらせていただき早17年、その間に編集方法にもデジタル化の波が。しかし最後はフェイスtoフェイス、温もりを感じていただける会報にと願っております。（小林）

「ファミリーヒストリー」を機に思うこと

鈴木伸幸（四高51年度卒）

私の伯母が四高の前身である四日市高等女学校の出身であることを、これまではさほど意識したことはなかったように思います。が、昨年放送されたＮＨＫの番組「ファミリーヒストリー」の取材を受けて伯母の生きざまを辿り、誇らしい先輩だと改めて感じています。伯母の勉学に対する強い気持ちは、戦争によって無残にも満足できるものではなくなってしまったとのことで、戦争の悲惨さの一面を垣間見たように思います。

私は、大学時代には週の半分以上は伯母の家から大学に通わせてもらうなど世話になりました。また、番組で従兄が言っていたティータイムを経験させてももらいました。伯母は、今も年に何度かは実家四日市にお越しになり、鈴木家のお墓参りとともに、友人との旧交を温めていらっしゃるようです。伯母には本当に感謝です。伯母さん、いつまでもお元気で！甥っ子として、そして後輩として、そう願います。

さて、私は現在、四日市駅から富田駅まで近鉄に乗って通勤しています。その時間はかつて私が四高生として乗車していたギリギリ滑り込みセーフに近い時間で、当時の電車の中は押し合いへし合いでしたが、現在の四高生はすでに登校済みか、見かけてもほとんどの生徒が問題集や参考書を見ており、世間でいうスマホ片手の登校とは異なる景色です。真面目なんだなぁ。自分たちの時代とは学校の雰囲気も変わっているのだろうと想いを馳せます。

高校生の頃を振り返り思い出すのは、やはりクラブや友と過ごした日々です。その頃の友とは今も変わらぬ付き合いをしています。少しヤンチャもしたような気もしますが、当時の四高生を温かく見守ってくださった先生方の信頼だけは裏切るまいと、物事の善悪の判断だけは忘れなかったつもりです。その意味で「考えること」も学んだように思います。

社会に出ても、八稜星の下に学んだ仲間というだけで親近感が湧いてきます。同窓生というのは何物にも代えられない私の財産だと、母校を望むたび感じている毎日です。後輩の皆さん、今は先を見通すことが難しい時代になってきたように思います。しかし、こういう時代だからこそ、地元をそして日本をよく知り、自分が何をやりたいのかを考え、そして自由に大きく羽ばたいてください！

昨年夏、ＮＨＫの番組「ファミリーヒストリー」で俳優舘ひろしさんが四日市高等女学校ご出身であるということで母校及び同窓会館へも取材依頼があり、協力させていただきました。そのお母様である舘初子さんが取り上げられました。

母校創立70周年記念誌に残る舘初子さんの文章

取材の様子

放映の一コマ

リレー随想〈第25回〉

自分の花

池坊中央研修学院教授
春荘　小林清隆（四高48年度卒）

突然のこの稿の原稿依頼で驚いている。私に依頼が来たのは、単に職業が珍しいからに違いない。

私は日本の伝統文化である池坊のいけばなを教えている。祖父から父、そして私と３代目になる。父が７年前に他界したあと、祖父から続く雅号である春荘を継いだ。大学を卒業してすぐこの道に入った。その頃はバブル期で生徒も多く迷いはなかった。それから早や44年、地元四日市でも教えているが、今は家元のある京都が活動の中心である。そのほか国の内外を問わず指導に当たっている。尤も今はコロナ禍の影響で海外派遣はない。旅先で同窓生に会ったことはないが、お互いいちいち履歴を披露することはないから、ひょっとすると会っているかもしれない。

いけばなについて少し述べてみたい。花を飾る行為は、日本人に限らず誰でもする日常の行為である。しかし我々の先人によって、花の表面的な美しさだけでなく、内面に輝く花の命を生かす努力が払われてきた。そこに精神性が育まれ、道ができた。室町時代から続く華道の誕生である。これは日本の恵まれた風土(植物相の豊かさにおいて)と「草木国土悉皆成仏」と言われるように森羅万象すべてに命が宿るという、日本人が持つ心の有り様によって生まれた。我々は美しく咲いた花だけでなく、草木の葉や枝や実も花と見る。散っても、枯れても花である。枯れたのは終わりではなく、まだ生かされる可能性を持つ。

そんな様々な素材を駆使して作品制作にも励んでいる。幸い６年前に、自身の作品集「花時分」を出版することができた。タイトルは世阿弥の「時分の花」から取った。芸に終わりはなく、日々精進と自分に言い聞かせるためである。

卒業してほぼ50年。今は母校を訪れる機会はないが、出張で近鉄富田駅はよく通る。電車の車窓から見える母校を見るたび、あの頃の思い出が断片的によみがってくる。クラブは吹奏楽部だった。部室だった十四川沿いのプレハブ小屋はまだ健在で、喧噪だった部室は静かに、そこだけ時間が止まっているかのように見えて懐かしい。

いつの間にか高齢者の仲間入りをしている。どこかで同窓生に出会わないかなあ。会えば四高の思い出に、花を咲かすことはできるだろう。

作品集「花時分」

学園だより

出会い

3年8組　福　間　愛　子

「人生は出会う人で決まる」いつからかこの言葉が常に私の胸にあります。四日市高校への入学が決まった時に、私は高校生という立場、四高生という立場を最大限に活かして、できる限りたくさんのことを経験し、たくさんの人に出会おう、という目標を立てました。そして実際に、ＳＳＨ関連の様々な企画や英語ディベート、生徒会役員など様々なことに挑戦し多くのことを得ることができた３年間だったと思います。

そして、それらの活動の中で得た最も貴重なものは、たくさんの素敵な人たちとの出会いでした。自分の興味のある活動に参加すると、同じような興味を持った仲間と深い話が出来たり、自分の得意なことをさらに上手く出来る人を見てもっと頑張ろうという刺激をもらえたりしました。また、そのような出会いは同時に新しい自分との出会いでもありました。

もちろん、普段の学校生活でもたくさんの大切な仲間ができました。何でもじっくり真剣に語り合うことができ、苦しいことも一緒に乗り越えてきた戦友であると同時に自分にはない尊敬できるところを持ったロールモデルでもある友達。自分もこんな大人になりたいと思えるようなかっこいい先生。これからもずっと大切にしていきたいと思えるたくさんの素敵な人たちに10代のうちに出会えたことはとても幸運なことだと思います。

私たちは今、「子供」という人生の第１章を終え、「大人」という第２章へと進もうとしています。高校でのかけがえのない出会いとこれからの出会いへの期待を胸に、次の章への扉を開こうと思います。

インターハイに出場して

2年2組　山　吉　　慧

私は長野県アクアウイングで行われた全国高等学校総合体育大会水泳競技大会飛込競技に出場しました。昨年は新型コロナウイルス拡大の影響により大会が中止され、出場することができませんでしたが、今回は開催され、初めてのインターハイとなりました。私は高飛び込みと３m飛び板飛び込みに出場しました。どの種目も集中して演技することができ、高飛び込みでは決勝に進出することができました。決勝に進出できたことが信じられなかったですが、日々の練習の成果を発揮しようと集中し、11位という成績を収めることができました。試合が終わった時には、「いい試合ができたな。」と感じました。３m飛び板飛び込みでは決勝に進出することはできませんでしたが満足のできるいい飛び込みができたと思います。何より今回の大会はすごく楽しくて、いい時間が過ごせたなと思いました。応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

ＳＳＨ国内研修（沖縄・鹿児島）に参加して

2年4組　竹　本　好　花

12月15日から20日の５日間、沖縄や種子島や鹿児島に研修に行きました。初日の沖縄では美ら海水族館に行き、獣医師や動物看護師の方のお話を聞きました。水中生物の医療について知り、水中だからこその難しさがあり、そこには多くの工夫がなされていることがわかりました。また、動物のお世話だけでなくジンベエザメなどの未知の生物の生態の研究なども行われていてとても興味深かったです。

また釣りや定置網体験もしました。三重県では見られない色や形の魚が見られ、沖縄の海の豊かさを感じました。そのあとにしたシュノーケルでは、目の前に透き通った海水と色鮮やかな熱帯魚や珊瑚礁が広がり、その景観はとても美しかったです。

種子島や鹿児島ではＪＡＸＡや桜島を観察しました。宇宙や火山など普段触れられないことについても考える機会となり、有意義な時間でした。

この研修では自分の興味のある分野や、それ以外にも幅広い知識を深めることができました。

一緒に行った仲間とも楽しい時間を過ごすことができ最高の５日間でした！

感謝を忘れずに

2年5組　弓　矢　妃　夏

７月から行われていたトイレの改修工事が完了し、10月から新しいトイレが使えるようになりました。今回の工事で改修されたトイレは、すべて洋式化・乾式化された上、自動水栓と人感センサー付きの照明も導入されました。老朽化が著しく進んでいた以前のトイレは、ひどい臭いや汚れ、頻繁な漏水など多くの問題点があった為、日頃からこれらの問題に悩まされていた生徒からは喜びの声が上がっています。また、乾式化により、水で床を清掃する必要がなくなり掃除の際の手間が大幅に省けました。今回のトイレの改修により、校内の衛生面が向上したとともに、多くの生徒がトイレをきれいに保とうと改めて意識するようになりました。今後は、トイレに関する生徒の不満を取り上げて改修を進めて下さった方々への感謝を忘れず、清潔に保っていこうと思います。

３号館１階「みんなのトイレ」

同窓会館 メモリアルギャラリー紹介

田村初代校長像

メモリアルギャラリー入口より

丹羽文雄氏色紙

田村初代校長筆「教育最良遺産」

丹羽文雄氏直筆原稿

田村泰次郎氏直筆原稿

昭和23年発足当時のもの

昭和25年より改定 現在に至る

四日市高校徽章

富中陶器製ボタン

四高生徒会誌「八稜星」
創刊号と第２号

四女同窓会誌「懐雪」創刊号

富洲原高女（北女の前身）袴

富田中学校全景（模型）

四高各年代の修学旅行のしおり

二中成績表

甲子園優勝投手 高橋正勝選手
着用ユニフォーム

甲子園優勝時の号外

実物は同窓会館２階にございます。ぜひお気軽にご来館下さい。